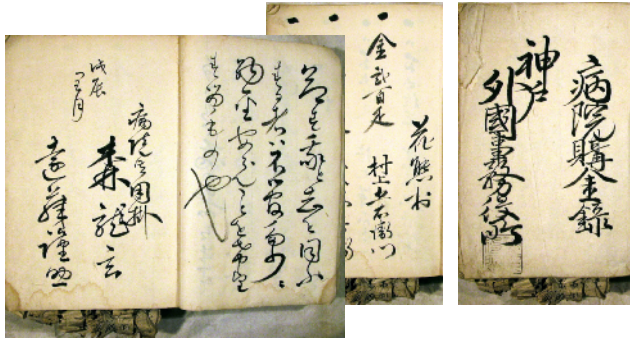


病院購金録 表紙と本文部分（伊藤博文(俊介)）



右から中表紙・本文冒頭・前文末尾

病院購金録 (兵庫県所蔵)

病院購金録は神戸病院建設のため募った寄付金の寄付者リストで、兵庫県公館県政資料館にある史料である。県政資料館の記録によると、史料は神戸医科大学（現在の神戸大学医学部）の所蔵で、昭和四十年（一九六五）に神戸病院関係史料を一括して兵庫県史のために借り受け、その後寄贈された。明治三年（一八七〇）～明治五年（一八七二）の病院医師人名録と、併設された病院への入学者名簿も合冊されている。

慶応四年（一八六八）四月二十七日に神戸の外国事務役所より病院御用係として医師森龍玄が任命された。史料には遠藤謹助なる人物も見えるが、森を補佐した県の官吏であろう。神戸病院設立の理由は、史料前文によると神戸の人々に治療が必要だからと述べられている。病院御用係が外国事務役所による任命であり、病院の場所も外国人雑居地内の宇治野村であったため、居留地在住の外国人からの要請とする説もある。

森と遠藤は、阪神間や摂津有馬郡、播磨美曇・加東・多可各郡の、いわゆる第一次兵庫県の村々を中心に、酒造家や商人、庄屋をはじめ、兵庫と大阪の関係諸官吏にも募金を依頼し、周旋人を通じて募金の受け付けを行った。本史料は、おそらく周旋人各自が記載した募金者名簿だったようで、十一冊の名簿を合冊した形態となっている。

こうして募金三千八百両余と政府の資金をあわせ、明治二年（一八六九）四月に神戸病院が開設された。森はそのまま病院取締役としてとどまり、初代院長（病院支配頭）には元アメリカ海軍軍医ベッター（史料ではウエトル）が就任した。

なお、神戸病院は医学校の性格も併せ持っていて、明治十五年（一八八二）に神戸医学校として独立した。しかし、経営難から明治二十一年（一八八八）に学校廃止となる。その後、戦時中の医師不足解消のため、昭和十九年（一九四四）に兵庫県立医学専門学校が設立され、神戸病院も学校の附属病院として認可された。これがのちの神戸大学医学部と附属病院である。